



For Woman

悪性腫瘍と診断された 女性のための 妊孕性温存について


JA 北海道厚生連
札幌厚生病院



一般社団法人WIND [女性の健康と医療を守る医師連合]
Women's health Integrative Network of Doctors



JA北海道厚生連 札幌厚生病院



はじめに

がん(悪性腫瘍)と診断されてから、病気、手術、抗がん剤治療のこと、将来、家族のこと…不安で頭がいっぱいですよ。

沢山考えなきゃいけないことがあることはわかっている、でも頭の中が真っ白で、焦りだけが…

そんな今だからこそ、治療が終わった後のことを一緒に考える時間を持ちませんか?

将来赤ちゃんを希望するあなたと考えたい、あなたに知ってもらいたいことがあります。

妊孕性(にんようせい)というのは妊娠する、妊娠を維持する能力のことです。

なぜ悪性腫瘍になったら、 すぐに妊娠のことを考える必要があるの?

悪性腫瘍の診断を受けた若い女性は、病気に打ち勝つとともに、将来妊娠しお子様を持つことを望んでいる方も多いと思います。妊孕性は色々な悪性腫瘍の治療によってダメージを受けます。しかし妊孕性を守る方法があることを知らないで、治療によって妊孕性を失ってしまう方も多いのです。

妊孕性を守る方法は治療を始める前に行われることが重要です。

悪性腫瘍の診断を受けたら、できるだけ早くに妊孕性温存の方法や可能性について主治医にお尋ねください。

主治医は妊孕性温存の方法を提案できる可能性があります。

悪性腫瘍の治療はなぜ妊孕性に影響を与えるの？

女性は一生分の卵子を卵巣をもって誕生してきます。生まれてから新たな卵子を作ることはできません。抗がん剤や放射線、手術によって卵子は様々なダメージを受けます。治療によって月経が不順になったり、止まったりすることがあります。たとえ月経があっても必ずしも妊孕性が保たれているとは限らないのです。

勿論、全ての女性が治療により不妊になるわけではありません。ダメージの大きさは腫瘍の種類や進行期、使用する薬、手術、放射線の種類・方法・量によって違います。特に抗がん剤治療を受ける方は、治療前に妊孕性温存の可能性について主治医にお尋ねください。

どうやって妊孕性温存するの？

主治医ががん生殖を担当する産婦人科医(札幌厚生病院)を紹介します。札幌厚生病院は北海道では数少ない日本産科婦人科学会が認定したがん生殖医療登録病院です。道内の病院から依頼を受けられるように北海道がんセンターやWIND(北海道大学産婦人科)などと協力して、がん生殖システムを運営しています。

妊孕性を温存する方法は腫瘍の種類、進行期、どの程度急いで治療を開始する必要があるかによって大きく異なります。

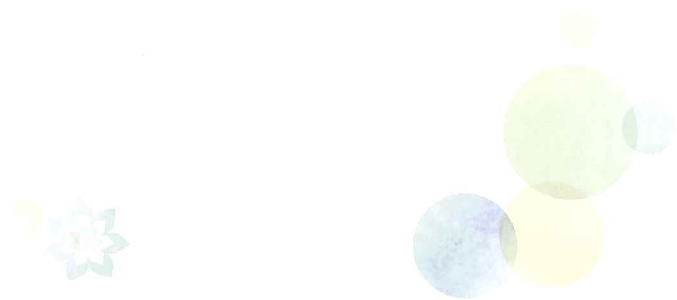
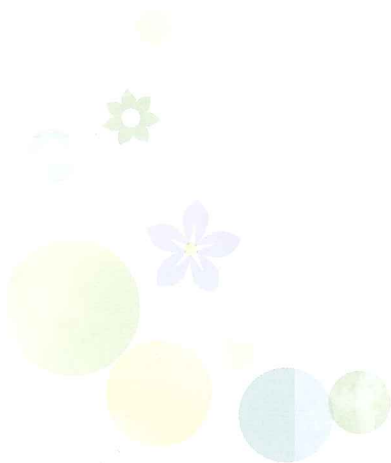
●胚(受精卵)保存

胚を凍結する方法です。卵胞を薬剤(排卵誘発剤)で発育させて、卵子を採卵します。体外であなたのパートナーの精子と受精(体外受精)させて胚にします。これを将来妊娠が可能になるまで凍結保存します。

●卵子(未受精卵)保存

胚保存と同様に卵胞を薬剤で発育させて卵子を採卵します。これをそのまま凍結保存します。

* (婦人科悪性腫瘍については、卵巣や子宮に直接的に治療が加わるため方法が限定されます。婦人科主治医と個別にご相談ください)



妊孕性温存で悪性腫瘍の治療を遅らせても良いの？

原則は悪性腫瘍の治療が最優先です。妊孕性温存療法によって大幅に治療が遅れることは安全上許されません。胚や卵子凍結などでは採卵までに2週間を要します。採卵後に腫瘍の治療を開始します。それぞれの方によって腫瘍の治療開始までに許容される時間は違います。なるべく遅れない方法を主治医、婦人科医と相談してください。

妊孕性温存における費用はどれくらい？

妊孕性温存の費用は体外受精の手技を使用するので決して安価ではありません。札幌厚生病院の体外受精費用はかなり低く設定していますが、それでもお金がかかります。現時点では不妊治療と同じく保険適応はありません。また保存費用もかかります。

治療後に妊娠しても安全なの？

現在までの医学研究から妊娠によってガンが再発することはないとされています。治療終了後、寛解期の妊娠は安全です。一般的に腫瘍が再発する場合2年以内が最も多いことから、妊娠時期については、治療終了後最低でも6か月は待つほうが良いと考えられています。治療中に妊娠することは安全ではありません。また腫瘍の再発以外にも治療の影響で他の臓器にダメージがでて、妊娠が困難な場合もあります。妊娠を計画するときは、主治医に伝えて相談してからにしてください。

妊娠できなかったら？

あなたの腫瘍の種類、状態などによって、妊孕性温存ができない、できても妊娠できない場合があります。お子様を持たないことに悲しみや怒りを感じることもあるでしょう。カウンセリングを受けたり、養子縁組など他の方法によって家族を持つことも可能です。



もしあなたの主治医が

妊孕性温存について話題にしなかったら？

主治医は妊孕性温存について話題に挙げないかもしれません。あなたが妊孕性について心配があれば、次のような質問で積極的に主治医に伝えてください。

- ・私の妊孕性温存方法は何ですか？
- ・私はどの程度急いで治療を開始する必要がありますか？
- ・現在パートナーはいませんが、将来は子どもを持ちたいと望んでいます。妊孕性温存にはどのような方法がありますか？

一般的に産婦人科以外の医師は生殖医療に詳しくはありません。直接、主治医が詳細に説明はしてくれないかもしれませんが、がん生殖を手掛けている医療機関(産婦人科医)に連絡をしてくれるはずですよ。

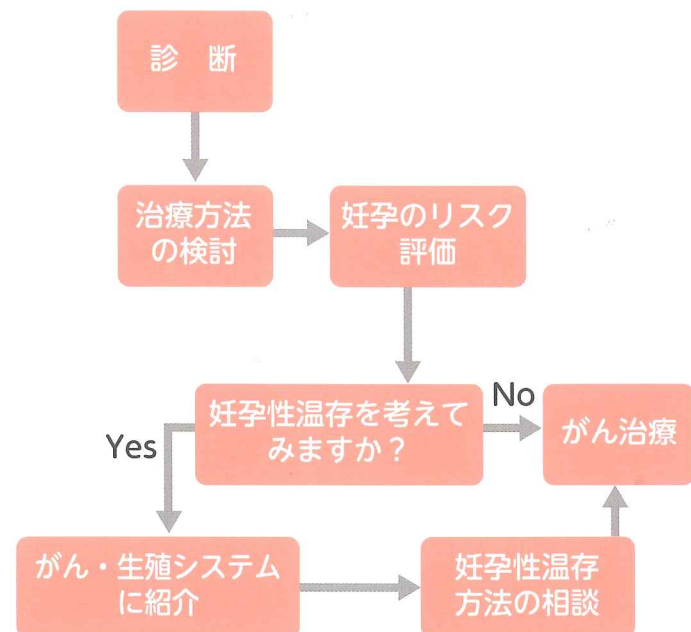
悪性腫瘍と診断された多くの方は、妊孕性を温存することは大切であると考えています。またその方法について情報を望んでいます。しかし…

- ・悪性という診断に衝撃を受け、妊孕性や将来家族を持つ可能性についてイメージできないかもしれません。
- ・腫瘍の治療という大きな問題を前に、妊孕性の問題を取り上げるのは好ましくないと感じているかもしれません。

妊孕性温存は、原則的に治療前に行うことが推奨されます。腫瘍の治療前に妊孕性の問題を考えることは大切なことなのです。

妊娠可能な年齢の女性にとって、妊孕性温存への最初の取り組みは計画された悪性腫瘍の治療によって妊孕性を失うリスクを評価することです。ぜひ恐れずに主治医に相談してください。また米国では、可能であれば腫瘍治療医は治療開始前に患者さんを産婦人科医師(生殖医療を専門とする)に紹介することを推奨しています。

妊孕性温存のためのフローチャート



連絡先

JA北海道厚生連札幌厚生病院 ☎ 011-261-5331

産婦人科がん生殖外来

毎週月曜日(完全予約制) 13:00~15:00